

ひとりではない社会に

さくま けいた

八千代市立大和田南小学校 五年 佐久間 啓太

私の学校には、月に何回かスクールカウンセラーという人が来る。なやんでいることや困っていることを、一対一で相談できる先生だ。でも、はずかしくて相談できずに人も多いと思う。

みんなの遊びや話の輪の中に、入れないひとりぼっちの子がたまにいる。その子に声をかけようとするがなかなかかけられない。なぜなら、その子に話しかけると、友達に何か言われなかと心配だからだ。でも、勇気を出して言葉かけをすることは、大切なことだと思う。自分一人で対しよできなくても、友達といっしょにどんどんさそっていききたい。そうすれば、ひとりぼっちでいる子もいなくなり、クラスが明るく仲よくなると思う。自分の本当の気持ちをだれにも言えずにいる人が、いっぱいいるから犯罪や非行がおきるのだろうか。

犯罪や非行を起こさない心を育てるには、温かい家庭が必要だと思う。温かい家庭とは、あまえたり、わがママが言えたり、よく話を聞いてくれる家族がいて、自分のい場所のあるおだやかな家庭のことだと思う。私は家庭で、兄弟や親と口げんかをして、きびしくおこられることがある。そんな時は、決まって「だって」といって言いわけをしてしまふ。おこって注意をしてくれるのは、自分のために言ってくれていることだからと後になって反省する。家庭での全てのコミュニケーションは、小さいうちに人とのせっし方や相手を思う心を育てていく、大切な所だと思う。

私の家の近くには公園があり、夜になるとバイクに乗ったお兄さん達が集まってくる。夜に集まることや少し変わったかっこつこうをしているので、悪いことをしているわけではないのに、ちょっとあぶない人なのかなとへん見をもってしまふ。

今年一番のでき事は、安倍元総理がじゅうげきされて亡くなるという事件だ。犯人には、いろいろな事情で一番大切な家庭がなくなり、家族がバラバラになってしまつた。小さいころから苦しい思いをしてきたから、それが一番の原因になったのだと思う。なんだか、かわいそうに思った。にくしみの気持ちがふくしゅうの考えへと変わって、ばくだんやじゅうを長い時間をかけて作り、実行したことについて私は、うらみやにくしみなどの感情が、人間の本質を変えてしまふことにとってもおそろしく思った。

犯罪が起きるのには、たくさんの理由があるが、大きく分けて二つの理由があると思う。一つ目は、自分のい場所がなく、こりつして生きずらさを感じ、どうしていいか分からなくなってしまふからだと思う。いつも一人でいると、周りの人とコミュニケーションがうまくとれず、周りになじめず、似たかんきょうにいる人達で集まり、犯罪や非行などにつながってしまふ。二つ目は、人への強いうらみやにくしみをがまんできず、そのことしか考えられなくなり犯罪を犯してしまふことが考えられる。

昔に比べて、犯罪件数は少しずつ減ってきているが、まだまだ犯罪はなくならない。だから少しでも減らすためには、相談できる場所、信らうできる人が必要だと思う。このようなことができる場所として、私の近所には「ほっこり大和田」というコミュニケーションスペースというものがある。地いきごとに広まっているようだ。このコーナーは小さい子からお年よりまで、だれでも気軽に利用できる場所だ。いろいろな人達とコミュニケーションがとれて、相談したり、学習のスペースとして使ったり、さまざまな活動の中からきょう味のあるものを選んでできる、とても楽しいコーナーだ。

犯罪を犯してしまった人が、自分一人で立ち直ることはむずかしいと思う。だから、少しずつコミュニケーションをとったり、へんけんをもたずと同じ見方で考えてあげることが大切だと思う。でも、今の私には、そのような人達によりそえる仕事について、社会の役に立ちたい。